

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第306回委員会議事録

1. 日 時 平成25年7月5日(金) 9:30~15:45
2. 場 所 東京都市大学 世田谷キャンパス 3号館4F メモリアルホールA
3. 出席者42名 (順不同・敬称略)

委員長： 寺井隆幸(東大)

主 査： 川口雅之(大阪電通大)、児玉昌也(産総研)

幹 事： 稲垣道夫(北大)、山口秋男(炭素協会)、塩谷正俊(東工大)、
上野貴博(日本工大)、尾崎純一(群馬大) 京谷隆(東北大)、
小林知洋(理研)、豊田昌宏(大分大)、安田榮一(東工大)、
吉田明(都市大)

委 員： 塩山洋(産総研)、飯島孝(新日鐵住金)、川野陽一(新日鐵住金化学)、
藤本宏之(大阪ガス)、高波浩(タンケンシールセーコウ/代理：川村
良一)、杉本久典(日本黒鉛工業)、園部直弘(クレハ・バッテリー・マ
テリアルズ・ジャパン/代理：小松真友)、岩下哲雄(産総研)、羽鳥
浩章(産総研)、沖野不二雄(信州大)、向井紳(北大)、鏑木裕(都市
大)、柴田大受(原子力機構)、太田道也(群馬高専)、福田敏昭(東海
カーボン)、小田廣和(関西大)、中川慎也(トライス/代理：赤瀬加央
里)、河合隆伸(日本カーボン/代理：柴田博史)

委員外： 菱山幸宥(東京都市大)、清原健司(産総研)、西澤節(神戸製鋼所)、
阿久沢昇(東京高専)、寺西春夫(石川カーボン科学技術振興財団)、

同伴者他： 吉澤徳子(産総研)、石井孝文(東北大)、和田拓也(積水化学工業)、
兒嶋勇(タンケンシールセーコウ)、鶴見裕貴(タンケンシールセーコ
ウ)、大崎弘貴(東洋炭素)

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

第305回議事録(案)を承認した。

4.2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 東アジアカーボンシンポジウムについて

11月14日に産総研において特別講演会として開催。下記三名の講演者に連絡し、来日了承済み。

- ・ Prof. Feiyu KANG, Tsinghua University
- ・ Prof. Chong Rae PARK, Seoul University
- ・ Prof. Jong Sung YU, Korea University

日本側講演者については、塩谷幹事、榎前幹事に依頼。

(b) 量子ビーム融合化利用研究

豊田幹事と JAEA 石山氏が協議。共同利用での実績作りを始めとして、今後も 117 委員会として協力する。双方がメリットを享受出来る形態が望ましい。

(c) 第4回日独合同セミナー

Carbon2014（済州島）終了後、7/6（日）～8（火）の日程で開催。尾崎幹事、向井委員を中心にスケジュール及び会場調整済。Carbon2013（リオデジャネイロ）において尾崎幹事がドイツ側に提案する。12月までに寺井委員長名にて企業に協力依頼を行う。

(d) 次回以降の予定

第307回 9/13(金) 東工大

第308回 11/14(木), 15(金) 産総研 (14(木)は東アジアカーボンシンポジウム)

(2) 分科会報告

(117-306-A-1) 高配向性熱分解黒鉛，熱分解黒鉛および熱分解炭素における低強度低回折角回折線

鏑木 裕¹，吉田 明¹，○菱山幸宥²

(都市大工¹，都市大名誉²)

(117-306-A-2) 高温処理炭素のエッジ面の分析とそれによる炭素構造の解析

○石井孝文¹，柏原進¹，大谷尚史¹，干川康人¹，京谷隆¹，尾崎純一²，
神成尚克²，高井和之³，榎敏明⁴

(東北大¹，群馬大²，法政大³，東工大⁴)

- (117-306-B-1) カリウム GIC への加水処理によるグラフェンの剥離
○和田拓也^{1,2}, 安武拓哉¹, 中壽賀章², 衣本太郎¹, 津村朋樹¹, 豊田昌宏¹
(大分大学¹, 積水化学工業²)
- (117-306-C-1) 原子炉用黒鉛の破壊靱値と微小押込み試験データとの関連検討
衛藤基邦^{1*}, ○大崎弘貴¹, 柴田大受², 角田淳弥², 小西隆志¹
東洋炭素¹, 日本原子力研究開発機構² (*研究実施当時)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係：川口主査（運営委員長）より以下の報告があった。

(a) 入退会関係

2013年6月19日時点の会員数：942名（正会員；745名、学生会員；197名）

賛助会員54社（口数：59口）

(b) 講習会・セミナー

・6月先端講習会

6月28日（金）に京都教育文化センターにて「リチウムイオン電池用導電助剤とバインダーの最前線」を実施した。91名の参加があった。

・9月スキルアップセミナー準備状況

9月6日（金）に連合会館（旧：総評会館）にて「電気化学キャパシタの最前線を探る：電気二重層からハイブリッドまで、炭素材料の果たす役割」を実施予定（学会HPに掲載）。

(c) 第40回年会の予定

2013年度第40回年会を12月3日（火）～5日（木）の期間で京都教育文化センターにて実施する（学会HPに掲載）。講演申込締切：8月26日（月） 注：ホテルが取りにくい時期なので、早めの予約をお願いしたい。

昨年に引き続き「ナノカーボン特別セッション」を通常のセッションと並列するとともに、2013年度は特別セッションの中に国際セッションを設け、海外（若手）研究者との交流を図る。

全体の特別講演1件、ナノカーボン招待講演（海外）3件・（国内）3件、ナノカーボン Keynote 4件を予定。

(d) 夏季セミナー

第51回夏季セミナーを8月26日（月）～27日（火）の期間でメイプルイン幕張（千葉市）にて実施する（学会HPに掲載）。本セミナーについては、来年度から炭素材料

学会が主催する予定（来年度予算に計上）。ただし、「若手の会」が主体的に実施・運営できるようにする。

(e) 連載講座の書籍化（名称：「カーボン材料実験技術（製造・合成編）」）

修正原稿がほぼ集計（39編）できたので、連載講座編集委員および学会編集委員で分担して査読を予定している。炭素材料学会出版、国際文献社印刷という形で本年11月発刊予定。

(f) 新カーボン用語辞典（仮称）

カーボン用語辞典編集委員を中心に、まず初版カーボン用語辞典について、最小限の修正を行い電子化作業・およびWeb公開を行うことになった。この際、会員は無料で閲覧可能とし、非会員は一部のみ閲覧可能とする（会員増強を図りたい）。Web公開の時期は2014年11月を目標とする。その後、内容について詳細な検討（ナノカーボンなど新規材料の追加を含む）をして充実させる。

(g) Carbon2017 日本開催について

Carbon2013（リオデジャネイロ）でのAACG会議において再度議論される予定（日本から3名参加）。他の候補としてオーストラリア、トルコが挙げられている。

(h) 国際会議若手研究者支援

Carbon2013（リオデジャネイロ）参加登録費の補助申請が3件あった。申請内容を妥当と認め、参加登録費100%を補助することにした（申請方法：「炭素」2013年4月号参照）。

炭素誌関係：沖野委員（編集委員長）より以下の報告があった。

(i) 258号は発刊済み。紙質が向上した。

(j) 259号は8月末から9月初めにかけて発刊。

(k) 260号は「炭素ナノ構造を利用した科学」というテーマで編集中。

(l) 図の転載に関してルールの徹底を図る。

(m) 電子版は図1枚あたり1000円の自己負担でカラー化可能。この場合印刷版には”Color online”のキャプション表示がつく。

(2) Carbon誌関係

京谷幹事より、インパクトファクター(IF)が約5.4から約5.9に上昇したと紹介があった。

(3) 国際会議関係

Carbon2014（6/29-7/4, 済州大）

(以上)